



子どもの読みたい気持ちを育てる

朝晩の冷え込みに、秋の深まりを感じる季節となりました。

さて、秋といえば「読書の秋」ですね。この「読書の秋」は、唐の時代の詩人である韓愈が詠んだ「符読書城南（ふ、しょをじょうなんによむ）」が由来と言われています。その一節に、秋の長雨が晴れて涼しくなり、夜の灯火に親しみながら心ゆくまで読書に励む様子が詠まれています。日本では、戦後に始まった「読書週間」によって「読書の秋」が定着しました。

こうした読書に最適な季節のなか、過日、読書に関する研修会に参加しました。その中で、子どもたちの「読みたい」という気持ちを引き出すためのアプローチのお話がありました。「読書が苦手」の背景には、「本との出会いの不足」、「選び方がわからない」、「読まされているという思い」などがあるそうです。

これらへのアプローチとしては、図書館などで本選びの体験をさせることや、「この本、おもしろかったよ」と子どもに本の紹介をしてあげることよいとのことでした。また、子どもが本について話した時に耳を傾け、聞いてあげることも、本との出会いを増やすことに繋がるそうです。

読書の苦手意識については、「読まない」のではなくて「読みたい本に出会っていないだけ」とも考えることができます。話の短い本や絵の多い本、図鑑、学習まんがなどを手にとることも、読書の入口として有効とのことでした。また、「本が手の届く身近な場所にある」、「毎日、本を読むための決まった時間がある」など、読書の習慣をつくる環境についてもお話がありました。

令和8年（2026年）の読書週間は、10月27日（火）から11月9日（月）までの2週間で、今年は第80回目となるそうです。中央小でも、毎週月曜日の朝読書や、PTA 役員・地域学校協働活動の方々、学校図書館司書等による読み聞かせを実施しています。また、「読書週間」には、図書委員会の児童によるイベントも企画しています。

子どもたちが素敵な本と出会い、読書に親しむことができるよう、引き続き努めてまいります。

前期終業式

10月2日（金）に前期終業式を行いました。子どもたちは、前期の学校生活を振り返り、後期に向けて気持ちを新たにすることができました。また、前期が終了したので、各学級で担任から子どもたちに通知表を配付しました。

3年生校外学習



9月15日(火)、3年生が社会科学習の一環で「カスミフードマーケット旭店」へ見学に行きました。

売り場やバックヤードを見学したり、お店の方の話を聞いたりすることを通して、働く人の様子や仕事の工夫について学ぶことができました。

奉仕作業



9月25日(金)、3・4年生の保護者、PTA役員、本校職員による奉仕作業を実施しました。

運動会に向けて、グラウンドの除草を中心に行いました。お忙しい中、参加してくださった皆様、ご協力ありがとうございました。

家庭科の学習



5年生、6年生では、家庭科の学習で、ミシンを使って製作物を作っています。

子どもたちへのきめ細かな指導のため、地域学校協働活動の協力員の方の力をお借りしています。先日6年生のエプロン製作の授業で協力いただきました。

地域学校協働活動

旭市では、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を令和6年から全校に導入しています。

中央小学校でも、ミシン学習の補助や町探検等の引率、読み聞かせ等で多くの方に協力いただいているところです。

今年度も残り半年ほどとなりましたが、引き続き、よろしくお願いいたします。



後期スタート

10月5日(月)、後期がスタートしました。子どもたちの現在の学年での学校生活もあと半年です。子どもたちそれぞれが、目標をもって努力し、楽しく学校生活を送ることができるようにしていきたいと思います。

ホームページでも、学校だよりをご覧ください。

右のQRコードもご活用ください。

<http://www.edu.city.asahi.chiba.jp/es-asahichuou/index.html>

